
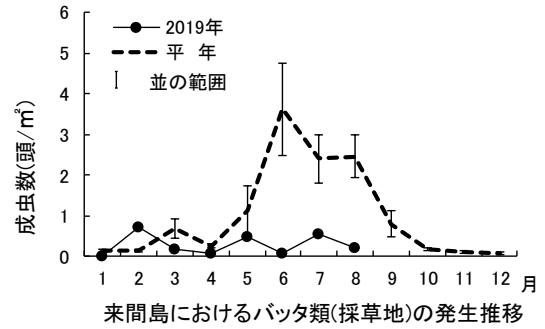
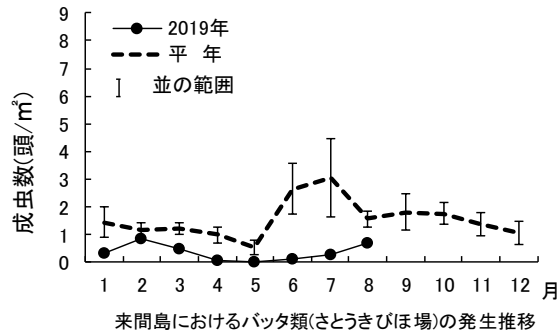


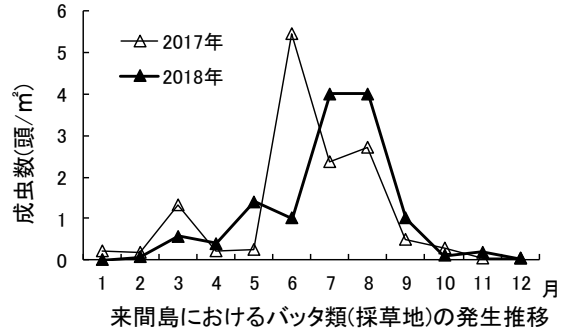
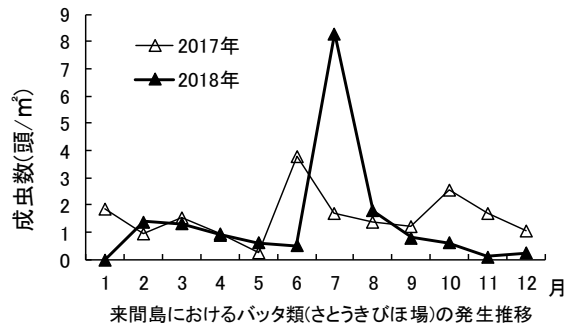
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	バッタ類		
予報	9 月の発生量 (平年比)	少	
	8 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	8 月の発生量 (平年比)	少	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今年と平年の推移




過去2年間の推移



・発生種：タイワンツチイナゴ

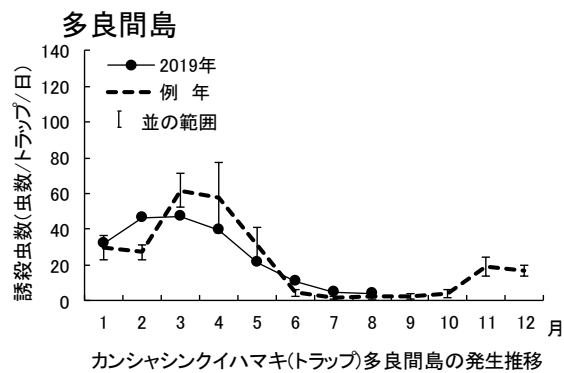
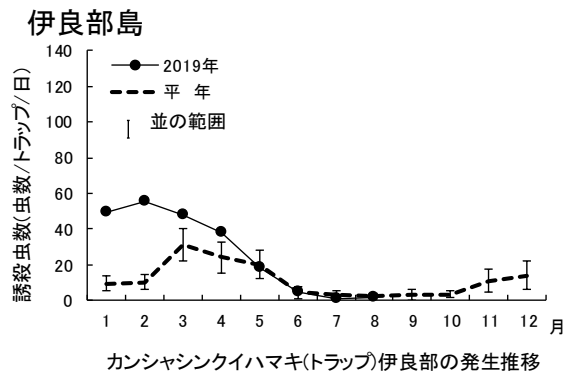
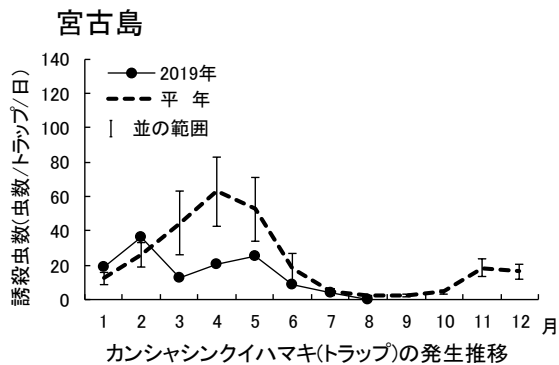
防除のポイント

- ・発生源となるほ場及び周辺の除草を徹底する。
- ・成虫防除を実施する場合には、活動の鈍い早朝に一斉防除を行うと効果的である。

作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)		
予報	9 月の発生量 (平年比)	少	
	8 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	8 月の発生量 (平年比)	少	
	その他 (気象要因など)	トラップ誘殺虫数の平年の発生量	

調査結果


今年と平年の推移



発生量
伊良部島：並 多良間島：やや多

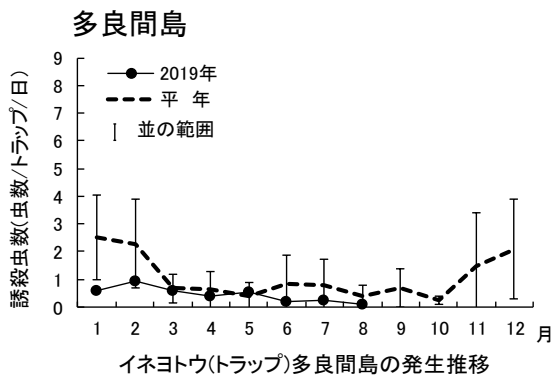
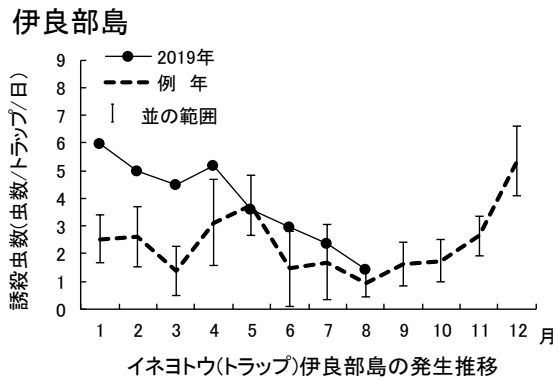
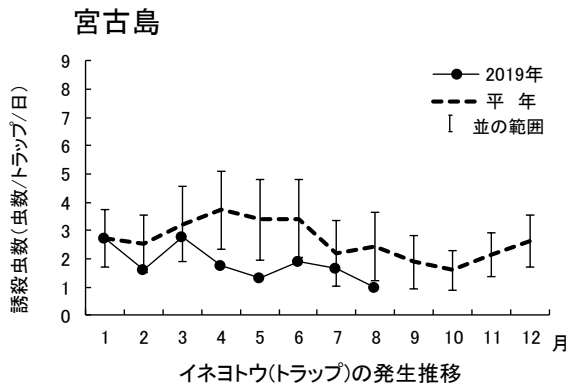
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	② メイチュウ類(イネヨトウ)		
予報	9 月の発生量 (平年比)	並~やや少	
	8 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	8 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	トラップ誘殺虫数の平年の発生量	

調査結果


今年と平年の推移



発生量
伊良部島：並 多良間島：並

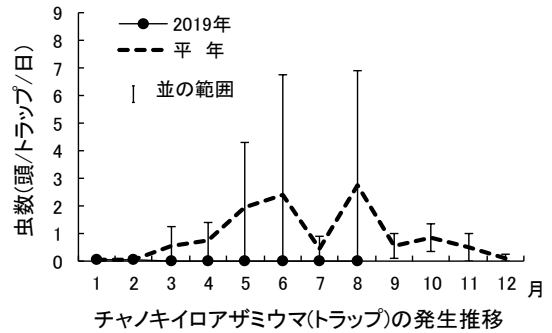
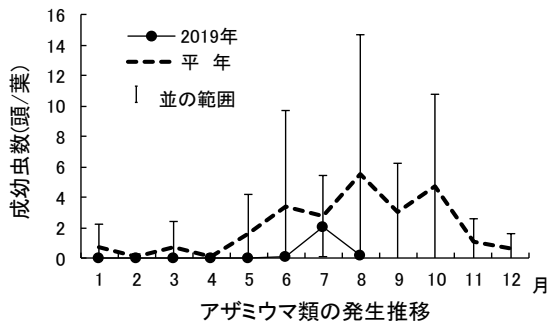
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

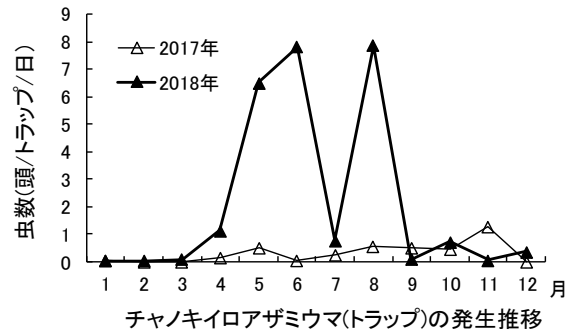
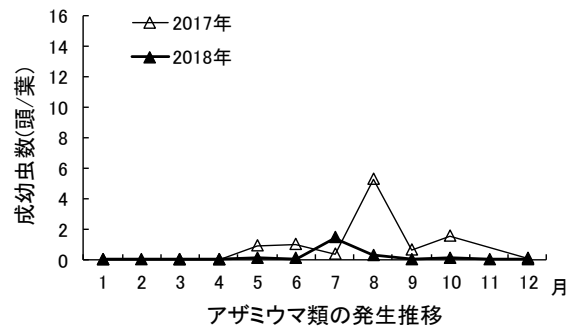
作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
予報	9 月の発生量 (平年比)	並	
	8 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	8 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	新梢の発生量が増加するため	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移




防除のポイント

- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 多発した施設では、収穫後に薬剤による防除を行う。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 不要な新梢は、施設外に除去する。

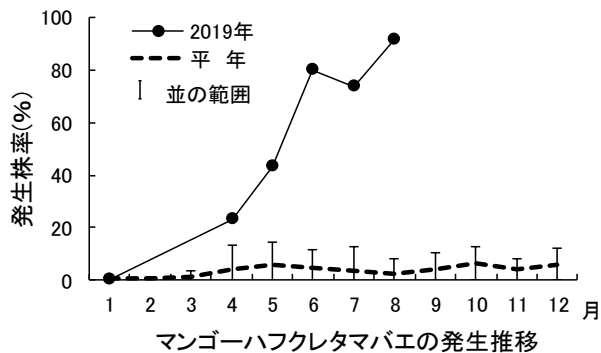


ナガエコミカンソウ

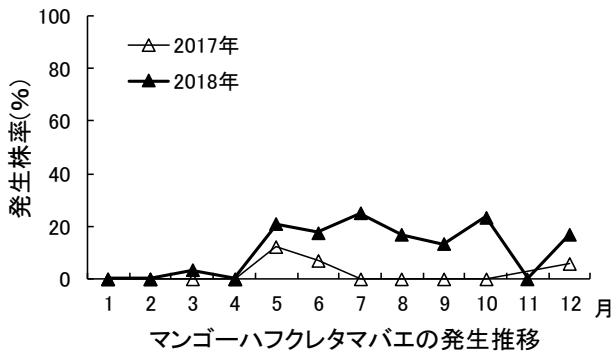
作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
予報	9 月の発生量 (平年比)	多	
	8 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	8 月の発生量 (平年比)	多	
	その他 (気象要因など)	新梢の発生量が増加するため 平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



- ・被害新梢率：55.4%
- ・発生施設率：100%

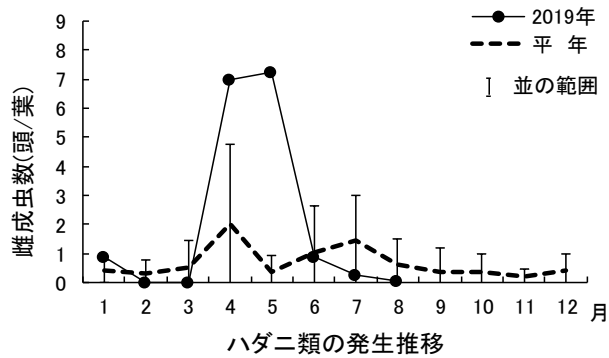
防除のポイント

- ・幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・翌年の着果枝となる新梢が加害されると減収につながるため、多発施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。せん定枝は施設外に処分する。

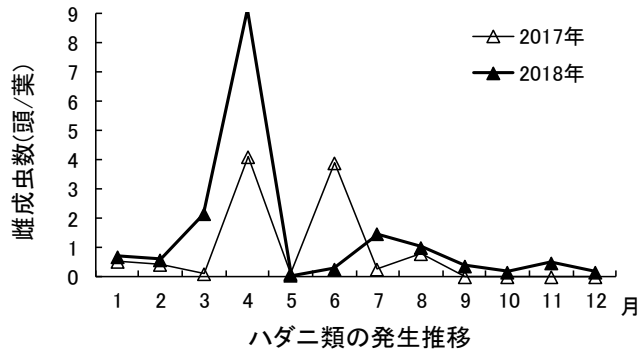
作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	③ ハダニ類		
予報	9 月の発生量 (平年比)	並	
	8 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	8 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



・発生種：シュレイツメハダニ

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。